

V 校 内 研 究

1 今年度の研究

(1) 研究主題

「あいての考えを聴き、自分のことばで考えを伝えることができる生徒の育成」
～ 学び合う授業づくりを目指して ～

(2) 主題設定の理由

「学び合い」の研究を始めて7年目となる。北辰オリジナル授業デザインの「①つかむ、自分で考える → ②伝える → ③深める → ④まとめる・振り返る」のうち、昨年度は「①つかむ」、「②伝える」の場面に重点を置き、学力の定着と生徒の主体的に学ぶ気持ちの向上を目指した。その結果、授業での生徒の発言が多くなり、生徒同士の交流が活発にできるようになってきた。しかし、学力の定着と生徒の主体的に学ぶ気持ちの向上にはまだ課題がある。

学力が定着するためには、生徒が自分の言葉でたくさん話をするのが効果的だとわかっている。本校の伝える場面の課題として、ただ自分の考えを伝えるだけになっており、自分の考えの理由や根拠を伝えたり、聞いた考えに対してどうしてそう考えたのかなど質問したりすることができておらず、考えを深める交流になっていないことがある。

そこで今年度は、

- ・自分の言葉で話すために必要な、自分の考えをもつことができるようにする。
- ・話す土台、聴く土台を学校全体で意識して、交流力（伝える力、聴く力、協働する力）を鍛え、授業で生徒がよりよい学び合いを行えるようになることで、学力の定着を図っていく。
- ・生徒の学びたい気持ちを引き出すために、学びの変容を自覚する場を設定する。

以上の取組を通して、主体的・対話的で深い学びを実現し、社会で生き抜く力を育てていく。

(3) 目指す生徒の姿

- ・自分の考え（やり方）をもてる生徒
- ・自分の考え（やり方）を発信できる生徒
- ・あいての考え（やり方）を聴いて、自分の考え（やり方）を変化させられる生徒
- ・教科の見方・考え方に即した理由や根拠をもち、自分の言葉（やり方）で説明（実技）できる生徒

(4) 研究の方針

「目指す生徒の姿」をいつも描きながら、教科部会、学年会、若手教員早期育成プログラム、各分掌等の連携を密にして取り組む。特に、交流力の育成を通して、学力の定着を目指していくことを全教員、生徒で共有して取り組んでいく。また、研究授業や講師からの助言が受けられる機会を設け、現状理解、授業力向上につなげる。

(5) 研究の内容

重点①「ゴール（ねらいやつけたい力）を生徒と共有する。」

生徒が自分の考えをもとうとするためには、生徒自身もゴールを明確にもつ必要がある。そのために、ゴールを明確にした単元（題材）の構想に加え、各授業ごとのゴールを明確にし、それらを生徒と共有していく。また、「なぜ、どのように」など、生徒の問いを引き出し、学び合う意欲を引き出す課題の工夫、ねらい達成に向けた資料や教材・教具、学習環境の整備、ゴールに向けての共通した見方・考え方の共有を行うことで、生徒が自分の考えをもてるようにしていく。

重点②「自分の考えを伝える（学び合う）場面の充実を図る。」

よい交流を行うために大切なポイントである。

- ・伝える練習の場として、ちょっとした確認や自分の考えを隣の人に伝えさせるなど、会話のキャッチボールの癖をつけるウォーミングアップの活動を入れていく。
- ・「話す、聴く、反応する」などの学びの土台を基本とした安全・安心な環境づくり。
- ・学び合う目的や視点をもち、根拠や理由を明確にして表現すること。
- ・見方・考え方を働かせて問題解決をすること、間違いや不十分な考えをいかすこと。

以上の点を意識して授業を行い、ルーブリック（評価基準表）を活用して交流力の育成を図る。

(6) 研究の重点にかかわる授業での共通実践

自分の考えをもたせる工夫をし、学び合う場面を設定する。